

お知らせ

四月例会

期日…立教 188 年 4 月 25 日
時間…15 時 30 分受付 16 時開始
会場…教庁 4 階講堂

学生層育成者講習会

日程・会場案内

【直属】

・朝倉	4 月 15 日 11 時 30 分	大教会
・甲府	4 月 22 日 12 時	大教会
・岡山	4 月 23 日 11 時	大教会
・網干	4 月 23 日 12 時	大教会
・櫻井	4 月 24 日 12 時	大教会

報告

二月例会

去る 2 月 25 日、教庁 4 階講堂において「2 月例会」を開催。出席は 30 教区、99 直属。

各地の動き

【教区学生層育成者講習会】

・京都	2 月 2 日	教務支庁	30 名
・清水慶政委員長出向			
・香川	2 月 2 日	教務支庁	38 名
・坂本明人委員出向			

業務記録

《立教 188 年 2 月 16 日～3 月 15 日》

2 月 25 日	学生連絡会
27 日	春の学生おちばがえり プロジェクトチーム会議
3 月 2 日	学生生徒修養会大学の部 直前研修会（3 日）
4 日	学生生徒修養会大学の部 （8 日）
9 日	学生生徒修養会 高校卒業生コース直前研修会
10 日	学生生徒修養会 高校卒業生コース（12 日）
13 日	委員会 人材育成部部会 学生連絡会 春の学生おちばがえり プロジェクトチーム会議
15 日	事務局連絡会

「学生おちばがえり大会について」



日頃は、学生層育成の上に、尽力くださり、誠にありがとうございます。

さて、いよいよ来年 1 月 26 日には、教祖百四十年祭が執行されます。これに伴い、直後に開催させていただく立教一八九九年の春の学生おちばがえりは、教祖の年祭を冠した「教祖百四十年祭 学生おちばがえり大会」という名称に変更し、開催させていただくこととなりました。

この大会開催に向かっては、学生たちの自主的な活動を全力で後押しすることは言うまでもありませんが、この年祭の旬の風を受けて、我々学担もこの機会に一步前進させていただきたいと考えています。そこで、1 月例会の場で、大会へ向けた学

担の取り組みを発表させていただきました。

学生担当者ならば多くの方が経験されることかと思いますが、学生を行事にお誘いした時に返ってくる第一声は「誰が来るの？」

「知ってる人いる？」です。つまり、大人が用意するおいしい食事や楽しいプログラムはもちろん大切なのですが、学生を呼ぶのに最も影響を持つのは学生であり、道の学生を信仰につないでいくためには学生同士のつながりが必要不可欠なのです。

そこで、この旬に全ての教区・直属に同じ信仰を持つ同世代の仲間同士のつながりが築けるよう、学担の総力を挙げて取り掛からせていただきたいと思います。特に、本年より直属でも開催できるようになった学生の集い「まなびば」

学生担当委員会 委員長

清水 慶政

や教区向けの「まなびば Life」を活用して、新たな学生を发掘していただき、その学生を他の学生たちとつないであげていただきたいと思っています。

たとえば、4 人の小さな集まりでも結構です。学生同士の繋がりができたなら、その学生同士のつながりを「教祖百四十年祭 学生おちばがえり大会」に向けて少しずつ広げていき、大会には全教区・直属から一人でも多くの学生と共におちばがえりができるよう、学担として目的意識を持って取り組んでまいりたいと考えています。

この旬に一步前進させていただけるよう、それぞれに勇んで努めさせていただきましょう。

令和 7 年 学生担当委員会 活動方針

「教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを共に味わおう」

「立教百八十八年学生生徒修養会 大学の部」開催報告

去る3月4日～8日にかけて「学生生徒修養会 大学の部」を開催、スタッフ263名、550名の大学生が受講した。本年は、「みのり塾」(12母屋)、「いさみ塾」(7・8・9母屋)、「よふき塾」(38母屋)、「まこと塾」(高安詰所)「つなぎ塾」(高知詰所)の5塾体制で実施した。受講生は学年や参加回数に関係なく班分けされ、お引き寄せいただいた学生たちは、教祖百四十年祭に向かうこの旬に、をやのお膝元、ご存命の教祖のお近くで、共同生活を通して絆を深め合いながら、『おやさまゝ心の拠り所』のテーマのもと、仲間と共に5日間を過ごした。

初日。不安と期待が交差する中、各塾に集った学生たちは、開講式を終えた後、班ごとに分かれ、心をほぐす楽しいプログラムを通してお道の教えに触れながら、同じ班の仲間やカウンセラーと交流を深め、次第に打ち解け合った。

2日目。教祖のみちすがらの概要について、イメージとともに知り学ぶために「おやさまシアター」視聴と、その解説を塾長から受けた。その上で記念建物を訪れ、教祖や先人が実際に過ごした建物を見学しながら、当時に思いを馳せしのぶ時間を過ごした。

3日目。清水委員長より「教祖魂のいんねんと御存命の理」と題した『全体講話』があり、すべての人間にとって、

そして自分自身にとって教祖はどういうご存在なのか、また、今も、今までも、そしてこの先いつまでも、深く大きく温かな親心をもってお導きくださるご存在であることを聞かせていただいた。続いて、『稿本天理教教祖伝逸話篇』よりご逸話をいくつか取り上げ、教祖の親心を皆で求め味わうプログラムを経て、「拝啓 おやさま」という教祖へのお手紙を、それぞれが今の素直な気持ちで書きしたためた。

4日目。四つのテーマの講話から一つを選ぶ『選択講話』では、各地で活躍する講師陣の話に聴き入った。前日に書いたお手紙を教祖殿に持参し、教祖の御前にて心で読み上げお届けし、ご存命の教祖との時間を過ごした。また、『塾別講話』では、副塾長による御存命の教祖を感じた経験談を聞き、その後も教祖のことをもつと感じ、知り求める時間を班ごとに過ごした。中には夕つとめ後、教祖お下がり

最終日。『塾長講話』では「教祖ゝ心の拠り所」と題し、実体験を踏まえつつ、教祖を心の拠り所に歩むこの道のありがたさを伝え、この先どんな中にもたれて通つてもらえるようにとメッセージを送り、『閉講式』では、表統領・中田善亮先生より一同に対してお言葉を頂いた。その後、受講生に修了証書が授与され、名残惜しさとともに教祖の温もりを感じつつ、受講生たちは家路についた。

「立教百八十八年 学生生徒修養会高校卒業生コース」カウンセラー感想文

私は初めてカウンセラーとして参加させていただきました。

事前研修には初対面の方が多く、人見知りの私についてはいけるのか不安がありました。研修プログラムが始まるとスタッフの方々が不安や緊張がなくなるようにと温かい雰囲気ですててくださりました。

本期間が始まり、カウンセラーと学生が初めて対面する面接では、緊張もありましたが笑顔で「おかえりなさい！」と迎えると自然と心がほぐれ緊張や不安が少しずつなくなっていました。担当した班の中には軽度発達障害のある学生が参加していました。その学生にはどう接していけばいいのだろうか、と悩むことが多くありましたが教祖だったらどうされるかと考えながらこの期間を過ごしていききました。班の学生は優しく素直な心を持った人が多く、たすけ合う姿に

たくさんの方の神様のご守護を感じられました。

もう一つ、私はこの学修期間を通して喜び探しをするように決めていました。班の学生から「ありがとう」と言葉で感謝を伝えてくれる姿が多くとても心が温まりました。自分の何気ない行動でも人に喜んでもらえることに私自身も喜びを感じることができました。

2泊3日の短い期間でしたが深い話をする中で距離が縮まっていき、学生たちのサポートをするために参加した私も、たくさん学びを得ることができました。

教祖百四十年祭仕上げの年にご本部のご用としてこのおちばで貴重な経験ができたことをとてもうれしく思い、推薦してくださった大教会長様、奥様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



QRコード読み取り

明日につながる
学生WEBSITE
Happist

<https://happist.net>

- お道の教えや心にグッとくるお話をご紹介します
- おちばの行事情報や各地の学生会情報も充実
- 「Happistスマイル」では学生の笑顔をお届け

学生に手渡しできるリーフレット
HAPPIST [NOT] NET

毎月25日発行。例会資料としてお配りしています。
部数のご変更は学生担当委員会事務局まで。

「立教百八十八年 学生生徒修養会 高校卒業生コース」受講生アンケート抜粋

【男子】

・最初は不安しか無かったけど、友達もできていろいろな人の話が聞けて非常に勉強になった。成長した3日間でした。

・あと1日欲しかったと思えるほど楽しく、あつという間でカウンセラーさんもすごく良い人で楽しませてくれたし、プログラムすべてが大きな思い出になりました。学んだことは親への感謝の心です。

・いろんな友達ができて本当に楽しかった。自分のペースでいいからみんなに心を開くことをしたら本当に楽しめるということとを学んだ。

・心の底から参加して良かったと思った。2泊3日は本当にあつという間で、濃くて充実した時間だった。講話や皆の話から、実践してほしいことやこれを頑張りたいということをいっぱい聞かせてもらったが、それはすべてきつと「陽気ぐらし」の実現に近づく一つの方法なのではないかと思った。

・学修には初めて参加したけどすごく楽し

かった。また、人生を振り返る良い機会になり、「感謝」を伝えることを自分があまりできていなかったことに気付かされた。目の前の人を喜ばせられる人になりたいと思いました。

【女子】

・学修に参加していろんな人と話できて面白かったです。感謝の心を忘れずにこれからも生活していこうと思います。

自分にとって参加できる最後の学修で改めてお道の良さを知ることができて良かったし、人の思いやりを持つてたくさんのかきかき仲間と出会えることができて、これからも信仰を通して学んだことや仲間を大切にしていきたいと思った。

・相手の立場で人のために行動することが何よりも大切だと思いました。悩んだときには教会に足を運び、教祖ならどうされるかを考えていきたいです。

・最初から最後までずっと楽しかった。本部の先生や主任先生の講話が自分の中の疑問や悩みのアドバイスになって、これらの人生の糧となったと感じました。

・すてき過ぎる3日間でした。自分と似ていて共感できることもあったり、自分に全くもってないものを持つている人がいたり、学修で仲間を通して自分の考えがまとまった。本当にすてきな仲間に出会えて幸せでした。ありがとうございます。

・食堂ではみんなが率先して準備をしてくれ、宿舎に帰ってきたら「おかえり」って言ってもらえて、寝る時、お風呂の時では「お疲れ様」と声をかけていただいてすごくさいなことに感動したし、幸せを頂きました。温かい空気感をありがとうございます。

・すごく楽しかったです。陽気ぐらしの実践方法はたくさんあると学びました。学ぶ前はひのきしんくらいだと思っていたけど、おやさまの身になって考えることが今回自分の中では大きな発見でした。ありがとうございました。

・4月から社会人になるため、学修が最後になるのですがとても楽しかったです。感謝することを当たり前だと思わず日々の生活を過ごしたいと思いました。

学生担当者報

「立教百八十八年 学生生徒修養会

大学の部」受講生アンケート抜粋

1年男子

大学生になって神殿に足を運ぶ回数が減ってきているのを自覚していたので、いろいろな先生方の講話やねりあいを通じてもつと天理教とのつながりを濃くしていないといけないと感じた。まずは毎日おやさまに心を通わせることから始めてみたいと思った。

1年女子

教祖のひながたをより詳しく知ることができ、新しい知識を身に付けることができ、これまで以上に教祖に親しみを持って、たくさん頼らせていただきながら成人していきたいと感じました。お道の教えは周りの人が明るく楽しく陽気になってもらうためにどうたすけさせていたのかを考えることができるすてきな教えだと思いました。

2年男子

いろいろな先生の講話を聞いたり、班の皆で話し合いをしたりしてさまざまな物の見方、考え方を学ぶことができました。物事が上手いかなかったとき、一つの視点

しか見れずに悩むよりもいろいろな視点から見て、教祖のご守護を感じて前向きになることができるのだと知ることができました。

2年女子

新しい出会いに感謝しかないです。より天理に帰ってきたくなる友達ができてうれしいです。すでに与えてくださっているご守護にどれだけ気付いて、感謝してご恩返しできるかが大切なのだと感じた。

3年男子

教祖についての捉え方が変わりました。今まで雲の上のような存在として捉えていましたが、より身近に親のように捉えることができるようになりました。

4年男子

本当におやさまを求めて深い話をして将来について考えられる最高の5日間でした。後継者として不安なことも多かったが、天理教の未来は明るいと思えるようになりました。

4年男子

今まで参加した学修とは全く異なる面白さあふれるメンバーで全力で楽しむことができました。教会でおかきさげを読んでいるが「なるほどの人」「誠の心」という言葉がいまひとつ理解できていなかった。しかし、今回の学修で学び理解を深めることができました。

4年女子

天理教の教会で生まれたわけではないし、ごく一般家庭で過ごしているため難しいと思うことも多かったけど、それよりも知らなかったことを知れたという学びが多かったです。就職するので機会はだいぶ少なくなるけど、悩んだ時、ふとした時に帰ってこようと思います。

4年女子

卒業、次の進路を控えている中で自分に必要なテーマで学修に参加させてもらうことができて、初日からお引き寄せを感じた。おやさまにお手紙を書いたのが特に印象に残った。おやさまの近くに行くことが多くてうれしかった。

「立教百八十八年 学生生徒修養会 大学の部」カウンセラー感想文

春夏含めて、今回 5 回目のスタッフで、初めてカウンセラーを務めさせていただきました。カウンセラーを通して学んだことは、事前の準備、理づくり、日々の通り方の大切さです。グループタイムを上手に進めようと意気込んで、学生さんに一番伝わる姿は、廊下ですれ違う時や、休憩中などの何気ない瞬間でした。伝わる瞬間には神様の後押しがあったように感じます。どれだけの後押しを頂けるかは、本期間が始まるまでの準備、理づくりが大切になってくることを学びました。また、本期間を共に通る相手とは、2 人で同じ方向を向き、心を合わせる事が一番大事だと思います。相方に不足を思えば、どれだけでも思うことができませんが、相手を見るのではなく、学生さんを見て、どれだけ喜んでもらえるかを一番に考えた期間でした。

私自身、学修に運命を切り替えていただきました。私がスタッフを務める一番の理由は恩返しです。当時の自分が感じた感動を、学生に味わってもらいたいとの一心で務めさせていただきました。「学修に来て本当に良かった」ありふれた言葉かもしれないですが、心の底からうれしくなり、少しでも恩返しができたかと思うと、胸が熱くなりました

また、こうして学修に参加できるのは、親神様・教祖はもとより、留守を守ってくれた妻、勤めている会社の支えがあったからです。1 週間も席を外し、迷惑だと悩むこともありませんでしたが、この伏せ込みは、必ず家族や会社にご守護くださる、だから神様にもたれようと通った 1 週間でした。参加を理解し、後押ししてくれた妻と会社、本当に感謝しています。

青 空

本部スタッフのご用を頂いて、早 3 年を迎えました。私にとって、本部スタッフのご用は自分の心を崖の下から引き上げてくれた救世主でした。皆さんも、頭の中では分かっているけど違った方向に行ってしまった経験ありませんか。まさに、私はその状態でした。自分に都合のいいように信仰の道を歩んでいました。そんな姿を見かねた教祖は、私の分かる形で「そうじゃないよ」と力づくで手を引っ張ってくれたんだと思います。その引いてくださった手の先、用意してくださったのが、学生担当委員会のご用でした。「てびき」とはまさにこのことかと、改めて感じる機会となりました。

そして今、学担で引き合わせていただいた委員先生や、部員・本部スタッフの仲間とご用をさせていただけています。ご用なのに、という言い方は良くないかもしれませんが、しんどい・大変という感情はむしろ無く、うきうき・わくわくしながら務められているのは、学担の皆さんのお陰なのです。そんな皆さんのことが、私は大好きです。

もし私が、あの時教祖の手を振り払っていたらきっと、この素晴らしい景色は見れていなかったと確信しています。

この恩に対して私のできること、それはこの用意してくださった景色に感謝を忘れず、胸を張って通り切るのだと思います。任期も残りわずかとなりましたが、気を引き締めて引き続き学生を丹精するうえで成人させていただけるように努めていきたいと思っています。

人材育成部本部スタッフ 中西 真亜子

「立教百八十八年 学生生徒修養会 高校卒業生コース」開催報告

3 月 10 日～12 日にかけて、『学生生徒修養会 高校卒業生コース』を開催。スタッフ 163 名、受講生 295 名が参加した。本コースは、進学や就職などそれぞれの道へと進む大切な時期に、親神様のみ教えを学ぶ中で、親神様、教祖はもとより、親やこれまで自分を支えてくださった方々への感謝の気持ちに気付いてもらうと共に、同世代の道の仲間とのつながりを深めることを目的に企画された。

初日は、『開講式』にて本部員・山本忠治先生より挨拶を頂き、また学生担当委員会・清水委員長から挨拶およびスタッフ紹介があり、その後、グループタイムを通して、お互いのことを知り合う時間を過ごした。

2 日目には、自分自身の過去を振り返り、多くの人に支えられてきたことに気付くことをねらいとしたグループタイムを行った。その後、本部准員（本明實分教会長）・中山昭悦先生より「親神様のご守護の有難さ」と題した講話を頂戴した。その後『ふりかえり』の時間では、それぞれが感じる親神様のご守護について語り合った。午後からの『組別行事』では、お楽しみ要素を盛り込んだプログラムを行

い、和やかな雰囲気の中で、班員以外の仲間とも親睦を深めた。『班タイム』では、神殿や神苑のひのきしんを行う班、屋内や屋外でゲームや昔ながらの遊びに興じて親睦を深める班など、班ごとに主体的に計画した活動に取り組み、有意義な時間を過ごした。夜には、『班内感話』を行い、自分の信仰や夢について真剣に語り合った。

最終日には、主任より「明日の君たちへ」と題した講話を聴いた後、振り返りを行うとともに、この 3 日間で学んだことを再確認した。そして、教えを基にこれから先の人生を生きる上での決意を記し、封筒に入れて持ち帰った。それぞれが新生活をスタートする時に開封し、学修で学んだこと気付いたことを今一度思い起こして、今後の日々に活かしてもらうことをねらいとしている。

最終日。『閉講式』において、表統領・中田善亮先生より一同に対しお言葉を頂き、その後、代表者に修了証書が授与され、2 泊 3 日の、短いけれども内容の濃い高校卒業生コースは幕を閉じた。